

# 「スーパージュニア選手育成プログラム2024」 特別プログラム（東京遠征研修）

「スーパージュニア選手育成プログラム2024—体験プログラム—」に参加した選手が、日本代表選手の合宿・練習施設等の視察研修を通して、将来のスポーツ活動の目標を決める参考となり、国民スポーツ大会の広島県代表やオリンピック出場を目指すアスリートに育つことを期待して、令和7年3月22日(土)から23日(日)の1泊2日の日程で特別プログラムを実施しました。

今回は、6回の体験プログラムとファイナルトライアルに参加した6年生男女7名とその保護者が参加しました。3月22日(土)、朝8時45分に広島駅に集合し、東京へ向けて出発です。計7回のプログラムを経験した仲間同士、新幹線の中では話が弾んでいました。

東京駅到着後、早速、国立競技場に向かいました。

国立競技場スタジアムツアーに参加し、トラックに足を踏み入れると、世界で活躍する選手たちと同じ場所に立っていることにジュニア選手たちは目を輝かせていました。残念ながら、実際にトラックを走ることはできませんでしたが、将来、国立競技場の舞台上で活躍する姿をリアルに想像することができたのではないのでしょうか。



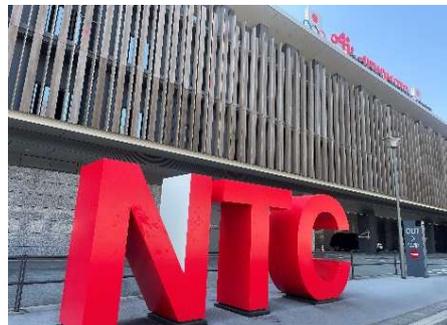
他にも、選手ロッカールームを見学したり、オリンピック表彰台に立ったりと、通常ではなかなかできない体験を楽しんでいました。



その後は、各親子でそれぞれ自由時間を過ごしてもらい、浅草やスカイツリーなど、東京を感じる時間となりました。

3月23日(日)、味の素ナショナルトレーニングセンターに向かいました。今回見学した施設は、屋内トレーニングセンター・イースト(東館)でした。

水泳、卓球、フェンシング、アーチェリー、ライフル射撃など、日本代表選手などが合宿・練習する各競技施設を見学しました。実際に代表選手が練習中の施設を見ることもできました。



また、速さや高さを体感できるゾーンもあり、世界最速のウサイン・ボルト選手と同じ速さで動く光と競争して、負けてしまったジュニア選手はあまりの速さに驚きながら、悔しそうにしていました。

さらに、パラリンピックの公式競技でもあるゴールボールの練習風景を見学することができました。ゴールボールは、視覚障害がある方が外が全く見えないゴーグルを着けて、鈴が入っているボールを投げ合い、得点を競う競技ですが、視界が全て遮られているにもかかわらず、ボールの位置を正確に把握して、ボールがゴールに入るのを防いでいる姿に「おおっ！」という声が上がります。その後、ジュニア選手たちも、実際にゴーグルを付けて、ボールを止める体験をさせていただきましたが、思った以上に真っ暗な視界に、ジュニア選手たちは驚いており、「全然分からない!」と言って、ジュニア選手たちの横をボールがすり抜けていきます。実際に体験することで、簡単そうにボールを止めていた選手たちがトップアスリートであることを尚さらに感じていました。



また、ポッチャ体験や、ライフル射撃の銃弾の入っていない銃を持ったりと、ジュニア選手たちは終始興味深そうに、楽しそうに見学をして、東京遠征研修を終えました。



この春から、参加した子供たちは中学生になります。今回の貴重な経験を活かし、今後のアスリートとしての成長、また人間としての成長を期待したいと思います。